
家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

あんみつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

【著者名】

あんみつ

N4582Y

【あらすじ】

ある日、間違えて神に殺されてしまつて、死んでしまつた、愛原未来。^{あいはらみらい。}

神に、「間違つて殺してしまつて、悪かつた。その代わりに、REBORN!の世界に転校させてやる。」
と言われ。

未来は、自分が大好きなREBORN!の世界にいくことになった。
しかし・・・彼女には、絶対に誰にも言えない・・・秘密があつた。
その秘密とは・・・

この話は、シモン編が終わってからのオリジナル話。

オリキャラ設定

名前	愛原 未来
フリガナ	アイハラ ミライ
身長	153cm
体重	40kg
髪型	お団子に、星がついているかんざしが刺さっている。
性格	めんどい事が嫌い、誰にでも偽の自分を出している。
好きなタイプ	強い人、かつこいい人、仲間のためなら何でもする人など・・・
嫌いなタイプ	弱い人、うるさい人、心配する人、ちよつかいしてくる人など・・・
武器	何でも使えるが、おもに、剣（赤色、黒色）
能力	心が読める、未来が見える、相手をのつと ことができる。

オリキャラ設定（後書き）

初めての小説です。
よんでもくれてありがとうございます。
これからもよろしく。

誰かで余り…（前書き）

タイトル関係ないかも・・・

誰かに会つ！！

ある日の帰り道・・・・。

未来「はあ～今日も詰まんなかったなあ～。

何でいつも同じ事しないといけないんだり？」

一人で、ぶつぶつ言いながら、帰つていると・・・

？「そこのお前。

今日こゝを殺してやる。」

何を言つてるのかわからない人がこゝちらに向かつて走つてくれる。

その人の手には、なにかギラギラしているものを持っている。

次の瞬間、体に違和感が感じる。

まさか・・・と思い見てみると。

その人が持つっていた・・・ギラギラとしたものが刺さつてる。

それは、包丁だった。

未来は、そこに倒れた。

未来「うう・・・なに・・・これ・・・。

あ・・・れ・・・もしかして・・・死ぬパターン・・・か・・・

な・・・？」

未来は、苦しい顔で言った。

その人は、びっくりした顔で、

? 「なつ・・・お前は、違う人・・・

悪かつたな。

人違ひだつた・・・まあ、お前は、すぐ死ぬからな、安心しな。」

えつ・・・人違い??

うそ・・・こんな死に方やだよ・・・

もう、その言葉は、声に出せなかつた。

だんだん意識が・・・飛んでいく・・・

? 「じゃあな。

未来。」

未来は、意識を失つた。

誰かに会つ！（後書き）

今日は、長かつたですね。

また次回

神に命づけられ（前書き）

今日は、まだまだ書くかも・・・

神に会つー！

未来「うう～～」は？？
だって私・・・死んだはずじゃないの？？」

未来が、悩んでいると・・・

？「おっ来た来た。

待つてましたよ～今度からは、もつと早く起きとね～

誰かが、話しかけてきた。

見てみると・・・美少年！～～

かつこいい・・・イケメンだ！！

えつ、でも何でここいるんだろう？

未来「あの・・・何でここにいるんですか？？

イケモ・・・お兄さん。」

危ない、危うくイケメンつていうところだった。

ふう～良かった良かった。

未来が安心してると・・・

ロック「そつかあ～イケメンね～～いいね！！

あつ、初めまして。

俺の、名前は、ロツク。職業は、神様ね！！」

未来「ようしくお願ひします。」

えつーーと、私は、愛原未来です。」

未来は、やっぱり気づいてたんだ・・・えつ・・・神様？？？

ロック「名前は、もう知つてたよー！」

さつき未来会つたし。」

ロックが、俺は、すこいぞと言つてゐるように聞こえる。

いやちがう・・・・セウニツハヌ。

未来「えつ・・・会つたて、どこ?」

卷之三

未来は、もう敬語ではない。

ロツク「えつ・・・だつて君殺したの俺だし

いや～あの時ばかりねん～。

未来に似てる人だつたし。まあ、ドンマイ未来

神戸会つー！（後書き）

後で、続きます。

神を讃む——（前書き）

前の続きです。

神を憎む！！

未来「ドンマイだつて・・・・・ふざけんなよ！－！」
人を、まちがつた！－！－！それぐらいで、勝手に、殺すな

今度は、私が、お前を殺す！！！」

私は、人生でこれだけ怒ったのは、これが初めてだ！！

ロックは、私の前で、土下座をして、

ロック「うめんなさい。申しません・・・絶対にーー！」

あと、殺氣を滲してぐたわい。

「…なんでもしませんが、許してください…」

ロツクが、泣いて謝つて來たので、未来は、殺氣を消して・・・笑つて。

未来へえ～なんでも・・・いいよ。

その代わりに、私が、想像した者をだしてね（ニコツ）」

偽の笑顔で、言つた。

ロックは、顔が青い。

口づけ「わかりました。今想像してください。

いきます。楽しんできてください。

あつちに行つたら電話があるんで、それでかけてください。

「

未来は、体が浮く感じになつて・・・落ちた。

神を讃むーー（後書き）

やつとREBORN-の世界ですーー。
お楽しみ!!。

REBORNZ!の世界!!

未来「いつたゞ～。あついたのか。ここがあ
思いどりにホントになるんだ。」

感心しながら・・・携帯を探す。

ここは、並中から、徒歩5分の所だ。

一戸建てで、4階まであり・・・1階ずつとも広い。

未来は、携帯をとり、ロックにかけた。

未来「プルルル・・・プルルル・・・ハイ」

もちろんロックが出た。

未来「あつ・・・ロック。あのさあ～ワンホールで出でね。
守らないと・・・わかるよね?/?」

未来は、笑いながら言つた。

ロック「わかりました。ああ～タンスに服があります。
武器もありますんで・・・。
いつてらっしゃい。」

未来「わかった。バイバイ～。」

これは便利！！

單行文字

REBORNZ! の世界!! (後書き)

次回みんなに会います!!

ポンペレーハ // コーパス

「ここがあ〜変わらないな。

あつそだ〜!! 雲雀ど〜だ〜つていな。

ああ〜あ・・・・まついいや。

職員室行かなくていいや。怒られたら・・・ズンマイ

先生「ここで、転入生の紹介だ〜〜あ〜入れ。」

私は、しなやかに入った。

未来「初めまして。愛原 未来です。よろしくお願ひします!!。」

未来は、偽笑顔で言った。

男子達は「かわいい〜」と言いつており・・・

女子は「かっこいい」と言いつている。

未来は、内心あきれている。めんべくせー。

私は、ある人を探していた。

沢田綱吉だ。

見つけた。しかも目合っちゃった。

ツナ（えつ・・今俺を見た？？そんことないかあ～。）

獄寺「あのやうに・・10代目を見て！-10代目！-敵かもしだ
ません！-！」

ツナ「獄寺君落ち着いて・・敵じやないよ・・たぶん。」

なんか言つてるな。私のことか！-！

先生「えつ～～と愛原は・・・沢田の隣だ！-！」

未来「わかりました。ありがとうございます。」

やつた～～ツナの隣だ！！

ボンバー・コーン会つーー（後書き）

いい所ですが・・次回です。

ターゲットになるーー

未来は、ツナの隣に座った。

ツナの隣は、山本。間を挟んで隣が、獄寺だ。

ツナ「よろしくね。愛原さん。俺沢田綱吉。」

未来「あっ・・うん・・・よろしくね。
わからなこと・・あるかい・・・よろしく。」

未来は、まだ信用できていないので・・途切れ途切れになってしまった。

獄寺「おーーーおまえ・・10代目になんて事を言つーー謝れーー」

獄寺が、怒るのでめんどくなつてしまつた。
「ひが、せつかく答えたのに・・・

未来「ごめ・・ん・・・・ツナ君・・・・」
「ボンゴレー0代目」に勝手に話しかけて・・・」

私は、はつきりわかるよひと言つた。

ツナ（なんで愛原さん・・・ボンゴローだと知つてゐるのーー）

あたりまえじゃんーーと心の中で囁いた。

獄寺「おーーーあとで屋上に来いーーー。」

赤ちゃんに会つーーー！

やつと授業が終わつた。

未来は、さつやと屋上へ行ひつとするべく

男子A「愛原さんかつこいよねーーーどり出身?/?」

女子A「愛原さんかつこいよねーーーどり出身?/?」

未来「あの・・・困ります・・・用事あるんで・・・ごめんね（ニコッ）」

未来は、人をよけながら出て行つた。

未来が、出て行つてもまだクラスは、うるさい。

未来は、並中のだいたいの場所は、知つてるので迷わない。

屋上についた。

かなり急いできたので、息が上がつている。

屋上には、沢田綱吉、獄寺隼人、山本武、それに・・赤ちゃんのリボーン。

未来「ハア・・ハア・・・・」めん・・待つた?」

まるで、デートの待ち合わせの言葉見たく言った。

ツナ「愛原さ」「未来でいい。」・・・未来ちゃん待つてないよ。」

獄寺「お前……また10代田に向かって……その態度直せよ……」

また・・獄寺が騒いでるよ。ああ～ひむせ～

山本「まあまあ、落ち着けって獄寺。」

獄寺「うつせえ……野球バカお前は、黙つてろ……」

いつまで続くんだろうつて思つていた。

沢田を見ると、困つている。

本当に、ボスなんだろうか?と思つてしまつ。

リボーン「お前ら静かにしろ。俺達は、ここに話があるんじやないのか?」

リボーンが、言つとみんなは、黙つた。

未来「かつわい～赤ちゃんだ!……」の子ツナの弟??

未来は、あえてリボーンの事をバカにした。

リボーン「俺は、赤ちゃんじゃね・・ヒットマンだ!～（カチャヤ）」

リボーンは、未来に向けて銃を構えた。

シナは、おどおどしている。

シナ「未来ちゃん、危ないから、下がってリボーンも、銃をしまえ
！」「

そうすると・・・リボーンが未来に、向けて撃った。

赤ちゃんに会つーー！（後書き）

長いですが、読んでくれてありがとうございますーー！

アルコバーノ！！

ツナ「未来ちゃん！危ない！」

ツナにいわれたが・・・避けない。

獄寺、山本も、リボーンの行動が、突然だつたのか、動けない。

未来は、弾を素手でとつた。

この行動に、みんなビックリしている。

未来・危ないなおり「ツカサちゃんと赤ちゃんの教育してます!」

せりふ、殺氣を一割出しているだけなのに、みんな顔が、青い。

リボーン「未来・・・お前ファミリーに入らないか?」

リボーンが、未来に向かつて言つてくる。

未来で何ですか？私はボンゴレはいりたくない。

確かに、ツカたちは、すこしよ。

蘭倒すし、

みんなは、ビックリしている・・・もちろんリボーンも。

今まであつたことを、未来は、すべて知っている。

リボーン「未来・・・お前何者だ・・・答える・・・」

リボーン発言に、みんなは、我に帰った。

獄寺「そうだよ！！リボーンさんの言つとこいつ、答える！！」

未来「私は、ただの一般人だよ！！ただちょっと知つててるだけ・・・」

みんなは、（ぜつたい一般人じゃねよ！）と思つてゐる。

当然、未来は、心を読める。

未来「これを見ればわかるかな？」

私は、アルゴバレーノだ！！」

未来は、おしゃぶりを見せた。

チヨーンは、つけてるけど・・・虹色だ。

この中で、一番リボーンが、ビックリしている。

未来「じゃあね　みんなまたね！！」

未来は、屋上を去つた。

アルコバレーノ！！（後書き）

この話は、まだ未来は、本心を出していません。

未来の本心は、これからです！！

アルコバレーノは、ロックに頼まれてなりました！！

何者？？

未来が、屋上から去った後・・・

ツナ「嘘だろ・・・未来ちゃんが、アルゴバレーーーー！」

ツナが、大声を出していった。

リボーン「うつせえぞ。俺もビックリしたぜ。虹色のアルゴバレー
ノなんて聞いたことないぞ。

あいつ何者なんだ・・・」

リボーンが、言つと、獄寺が急に、走り出した。

ツナ「えええ～！～獄寺君急ごどつしたのー？」

獄寺「10代田！～俺あいつの後、追つてきます！～何者か調べて
みます！～」

獄寺は、そういって屋上から、去つていった。

山本「おもしろいなあ～いっちょ俺も行くか、じゃあなツナ。」

山本も、獄寺のあとを、ついて行つた。

ツナ（えええ！～なんでみんな行つやうの・・・）

リボーン「お前も、ボスなんだから愛原のこと、調べて来い（ゴン）

」

リボーンは、ツナの頭を蹴った。

ツナ「わかったよ~行けばいんだろ、行けば!~」

ツナも、獄寺たちの後を、追つた。

リボーン「俺も、調べるか・・・」

リボーンは、誰もいない屋上で、笑っていた。

ナンパにあう！！

そのころ、未来は・・・

未来「おつー…やつぱりみんな私の」と、調べるんだ…！ 楽しみ

未来は、歩きながら未来を見ていた。

未来は
家に帰っていると

男子A - 「これからどうするいい女いないしなあ！」

男子曰く「確かにしなしないありお!!」あの子言葉遣い子だ!!」「

男子A ほんとだ!! ナンハじゆうセー!!

未来は
その人達を見ていた

その人たちが、未来に寄つてくる。

男子A - ねえねえり君 可愛いねこれから暇??

未来は、おびえたフリをしながら。

未来「えつ・・・私・・・可愛いですか?・・・そんなんの・・・困ります。」

未来は、泣きそうな顔をした。

男子達（（何）のためつかや 可愛い……）

男子B 「可愛こよーー泣かないでね。」

男子達は、おどおどしていぬ。

未来「あつがいへりぞまく・・・暇ですかゞ・・・」

未来は、だんだん笑顔に戻ってきた。

男子A 「ホント……じや あ俺りと遊ぼひよーー。」

男子が、うれしそうに囁いた。

未来「いいですか・・・君達何群れてるの。」・・・えつ・・・」

未来は、声が聞こえたところを、向いた。

その声は・・・雲雀 恭弥だった。

ナンパにあづけ（後書き）

わつとい、雲雀登場ですか……。
いじめで、長い……。

雲雀 恽弥に会つ！！

男子達は、雲雀を見て齧えている。

雲雀「咬み殺す」

雲雀は、トンフラーを、男子達を殴つた。

男子達「くおおおおおお……！」

男子達が、吹っ飛んだ。

雲雀が、じつちを見て笑つた。

雲雀「次は、君だよ。」

殺氣を放つている。

未来も笑つて。

未来「えつ・・・・困ります・・・・私・・・・戦えないし・・・・」

未来は、フリをしているが、まったく雲雀は、気にしてない。

雲雀「いいから・・咬み殺されなよ。」

雲雀が、向かつてくる。

未来は、ため息をついて。

未来「いや……怖……くない……」

未来の発言に、雲雀はビックリした。

未来は、雲雀の攻撃をすべてよけている。

そこに、ツナたちが来た。

ツナは、雲雀の攻撃をすべてよけているのを見て、びっくりしている。

ツナ「すじこ・・・ぜんぶよけてる・・・」

未来は、ツナたちが来たので、一歩下がった。

未来は、小声で雲雀に向かって、

未来「ごめんね・・・もつ終わりだよ・・・」

と、いつて未来は、逃げた。

ツナたち「あつーーにげたーー！」

雲雀「ちつ・・・逃げられた・・・眠いからから帰る。」

雲雀も、帰つていった。

ツナ（なんで俺達が、来たから逃げたんだ？？）

ツナは、心の中で、疑問に残つた。

未来の好きな人！！

未来は、もうダッシュでツナたちから逃げてきた。

未来「危なかつた、絶対戦つてるとこ見せれないし……リボンに、目つけられたら、やばいし」

未来は、知らなかつた……もうリボンに、目をつけられていることを。

ロック「おい、未来。」

突然声がした。

周りを見ているが……誰もいない。

ロック「当たり前だよ……俺は、お前の中にいるから……みえねえよ。」

未来「ああ～そうか。で、何の用？」

突然、殺氣を出した。

ロック「殺氣出さないでください。お願いします。」

なぜかロックは、泣きやうな声で言つた。

未来は、そこまで悪魔ではないと、思い……殺氣を抑えた。

ロック「あの・・・未来様。何でそんなに、沢田たちと仲良くしないんだ。」

せつかぐ、REBORN！の世界に来たのに？」

未来は、ちょっと困った顔で、

未来「ツナたちと仲良くしたいけど・・・私は、あいつらよりも、もっと別の人には、会いたいの！！」

ロック「誰だよ！？ お前が、そんなに会いたい人って？」

未来は、顔を赤くして

未来「それは・・・その・・・ええ・・・言つたの・・・？」

ロックは、未来の顔を見て、顔を青くした。

ロック（かわいい・・・だけど、こんな人にやつて、態度変わるのがよ。）

未来「なんか言つた！？」

未来は、突然殺氣を出した。

ロック「いえ・・・なんでもありません。誰だよ！？」

未来「わかつた言つ・・・その、ヴァ、ヴァリアーなんだけど・・・
・／＼／＼／＼」

ロック「ヴァ、ヴァリアーだと！ お前ヴァリアーが好きだったの

かよー！」

未来「私ね、その・・・好きな人の前では、途切れ途切れになっちゃうの・・・」

ロック「だから、沢田たちの時も、あんなったのかー！なるほどー！」

ロックは、すべてわかつた。

ツナたちと話す時、あんなにおどおどしていたのが、わかつた。

未来「これ秘密だからねー！絶対だよー！」

つと、言つて、家に帰つた。

未来の好きな人！！（後書き）

作者「未来は、ヴァリアーが好きだったとねえ～」

未来「べ、べつにいいでしょ！…ヴァリアーがすきでも！…／＼／＼／＼

作者「特に、誰が好きなんですか？」

未来「えつ・・・誰が・・好き？・・・そんなのいえない…！」

作者「じゃあ、ヴァリアーの人にはわせます。」

未来「会つたら・・・死んじやう・・・」

作者「皆さん！！未来は、誰がすきなんでしょうか？」

会つてからのお楽しみ～！～」

宣戦布告！！

次の日の朝・・・

未来「やば～い！！遅れる！！！」

未来は、朝から遅刻になりそうだった。

今、8：10分

学校に着いた・・・8：15分

未来「セーフ！！あれ？？誰もいない！！ああ～今日学校休みだつた！！」

未来は、てっきり学校があるかと思った。

未来は、歩いており、屋上へ向かつた。

屋上について・・・

未来「うう～気持ち～」

体を、伸ばしていると、

ツナ「未来！！何でここにいるーー！」

えっ・・・と思い見てみたら、ツナたちがいた。

ツナは、ハイパーモードツナになつており、額には、死ぬ氣の炎があつた。

未来「何やつてるの？？みんなそろつて。」

未来は、平然と聞いてきた。

リボーン（なんだこいつびづくつしないんだ）

未来は、心を覗いていたので笑つている。

リボーン「こいつらの、修行をしている。」

未来「へえ～そなんだ。」

未来は、興味なかつた。

自分より弱いからだ。

リボーン「おい、愛原！～！」こいつらの相手になつてほしい。

みんなビックリしている。

未来はため息をついて

未来「いいよ でも、死んでも知らないよ。」

未来は、殺氣を出しながら言つた。

リボーン（こいつは、すげえな。）

未来は、一步前に出て、

未来「ここにいる、みんなで来ていいよ。私、勝てるからーー！」

みんなは、その言葉に、青ざめている。

未来「なに？怖いの？あの”ボンゴレー0代目ファミリー”が脅えてるなんて・・・アツハハハハ！！

獄寺「貴様！！バカにしやがってーー！」

リボーン「うるせえぞーー始めるぞ。」

静かになつた。

未来「じゃあこのコインが、床に着いたらスタートねーー！」

未来は、コインを、弾いた。

宣戦布告ーー（後書き）

「これから、戦いですよーー！」

未来は、戦いになると、我を忘れます。

戦い始まる！！

「インが、床についた。

先に、攻撃してきたのは、獄寺だった。

獄寺「カンビオ・フォルマ
形態変化」

獄寺は、姿が変わった。

未来「へえ～これがね・・・どんなの？」

獄寺「瓜ボム！..」

瓜が、こっちに来た。

未来は、避けようとしない。

未来は、くらつた。

だが、傷一つもついてない。

未来「なんだ～これだけ・・・つまんない」

獄寺立ちは、ビックリしている。

未来「ねえ・・・終わりにしていいかな 飽きたし・・・」

未来は、そういうて・・・獄寺たちに、向かってくる。

獄寺は、未来の行動が、早くて見えなかつた。

獄寺「なつ！！はええ！！」

未来は、獄寺の前に立ち、一瞬笑つて、蹴つた。

未来「一人終わり！！二人目いつきまーす！！」

そういうて、次は、山本の前にいた。

山本（なんだこの速さ・・・）

山本は、反応できなかつた。

山本も蹴りで、飛んでいつた。

未来「二人終わり。三人目」

笹川の前に、立つ。

笹川も飛んでいつた。

未来「みんな弱すぎ！！最後だね・・・ツナー！」

今度は、ツナから行つた。

もうそこには、未来はいなかつた。

ツナ（どこだ？）

ツナは、探してゐる。

未来「後ろだよ。うしろ・・・

未来は、ツナの後ろにいた。

未来「これで終わった。」

ツナも、飛ばされた。

リボーン「俺達の負けだ。お前強いな。」

未来「どうも……じゃあね……！」

未来は、いなくなつた。

戦い始まる…（後書き）

すいません。あまりバトルシーンはつまらできなーいんで…・・・省略しました。

考える！！

未来は、家に帰つており、

未来「みんな弱すぎ・・・せつかく楽しみにしてたのにー!ー」

ため息をした。

未来の、田の前に口ヅケがあれわれた。

未来は、急に殺氣を出した。

「ツケ、殺氣引込めた。」「かんしたる、未来がよすぎ」

未来へお前はいかぬ
信じたがために

「そこのだいたリアへ行こう。ウタリアへあつてこいよー！」

ロツクは、いつも以上元気になつた。

未来は、顔を赤くしていった。

ロック「別にいいじゃね。行こうぜー。」

未来「えつ・・・でも学校は・・・」

ロック「病気ついで。こりゃーー。」

未来「わかった。準備する。」

未来は、自分の部屋に行って、準備し始めた。

ロック（俺が、せんぶ手配してやる）

未来たちは、早速空港に行つた。

考える！！（後書き）

次回、ヴァリアーです！！

未来が、好きな人がわかります！！

イタリア！！

未来は、今イタリア行きの飛行機に乗っている。

あれから数時間後、イタリアに着いた。

未来は、体を伸ばした。

未来「ああ～やつと着いた！！飛行機の中最高～だよーー！」

未来は、飛行機の中で、曲を聴いていた。

もちろん好きなキャラクターのキャラソンだ！！

ロック（おい未来！～ヴァリアーの本部に着いたら、部下をのつと
て、侵入しろ。）

未来は、心の中で頷いた。

未来は、ヴァリアーの本部に向かっていた、

未来（ここであつてるの！？全部森じゃん！～）

未来は、後ろから、飛んできたものをとった。

見たら、ナイフだった。

未来は、確信した。

「……、ヴァリアーだ。そしてナイフの主は……ベルだ！！

ロック（何見つかってるんだよー早くのっとれ）

未来は、走った。

ベルは、追いかけるのをやめた。

ベルは、通信機を出した。

ベル「しししつ隊長侵入者発見！！そっち向かつた

?」「つ、お、おいー！何やつてるんだよ、ちっ、しょうがね。」

ベルは、切った。

ベル「誰だよ・・・・・あいつ・・・・・

ヴァリアーに会つ！！

未来は、ヴァリアーの警備隊を見つけた。

未来（氣絶させないと・・・めんどうなあつ！ロックやつてこい！）

未来は、ロックをパシリした。

ロックは、どんどん倒していく。

未来「これでいいよね！のうとてる間は、楽だな！」

未来は、一人の警備隊の中に入った。

未来「へえ～」いつレヴィのぶかなんだ・・・かわいそ～

未来は、のつとつた相手の、情報がわかる。

未来は、庭に向かつた。

庭に着いた。

未来は、自分になつた。

未来「やつぱり！～自分の体が一番」

A「見つけたぞ！～侵入者だ！」

未来は、笑顔で逃げた。

未来(じみ)は、今(いま)のわれに、今(いま)のわれに、

未来は、近くにあつたドアに、逃げた。

? 「う、お、おい！貴様が、侵入者か！」

未来は、振り返つてみたらヴァリアーのみんないた。

未来「えつ・・・・聞いてない・・・」

? 「う、お、おい3枚でお願いしてやるー!」

• • •

? 「おー、てめえ何者だ」

睨まれたよ・・・ぜんぜん怖くないけどね

未来「えつーーーと・・・一般人でーすーーー！」

うわあ～みんなの視線が、痛い。

? 「何バカなこと言つてんだ！！」

この人ひどくない・・・人をバカだつて！！あとで、殺す。

? 「ふん、かつ消す。」

ベル「ちょっとボス！…まずいつて。」

?「ムムム、やばいね。あいつ死んじゃうよ。」

みんな戸惑ってるね。おもしろい〜

未来「貴方が、ボスですか? ハハハイー！」

笑いながら言った。

未来は、急に顔を、無表情にした。さらに、殺氣を出した。

ヴァリアーのみんなは、未来の行動にビックリしている。

?（何だこいつ。急に殺氣を出しあがつた。）

未来「私と、殺りますか? ヴァリアーの皆さん」

また、笑顔で言った。

?「いいぜーかす鮫つれてーーー」

未来は、殺氣を抑えた。

ヴァリアーに会つ---（後書き）

未来は、最初は、恥ずかしかったけど・・・戦いモードのスイッチ
がはいりました！！

ヴァリアーと戦う！！

未来が、歩いていると、

? 「お前、名前は…！」

未来「えつーと…ルビー・ルミネ・未来だよ…！」

スクアーロ「俺は、スクアーロだあ…！」

未来は、無視した。

未来は、次に赤ちゃんを見た。

マーモン「ムムム、僕は、マーモン。」

未来は、笑った。

未来（今は、喋りたくないし）

スクアーロから、他の人の名前を聞いた。

未来は、ポケットから、携帯を出し、イヤホンをつけた。

スクアーロ「お前、曲聞くのか…！」

未来は、頷いた。

未来が、聴いてる曲とは…・・・ベルの「bloody rain

ce「だ

未来は、普段から、曲を聴いている。

ベル「着いた。ししそつ、楽しみ～」

XANXUS「来たか・・・お前の相手は、カス鮫とレヴィだ・・・」

未来「ねえねえ、XANXUSあ～、ホントに、こいつらでいいの？」

XANXUS「ああ・・・・・」

未来は、笑った。

未来「すぐ終わるなあ～。」

スクアーロ「すぐに終わるのは、てめえだ！！」

スクアーロが、剣を振って、近づいてくる。

未来は、それをよけスクアーロの後ろに立ち、蹴った。

スクアーロは、飛んでいき、壁に合つた。

レヴィは、最初に終わらせてある。

未来は、剣を向けた。

スクアーロ「俺の負けだ！！」

XANXUS「おもしれ～気に入った。かす鮫こいつを、入れるぞ
！！」

未来「ありがとうございます！！頑張ります。」

未来は、その部屋から、出て行つた。

ネックレス・・・

今は、朝・・・

未来「ふあ～よく寝た！～今は・・・・・10・45分」

未来は、時間を確認すると、着替えて部屋を出た。

ロビーに行つたが、誰もいない。

未来「あれ誰もいない・・・・なんでもえ？」

未来が、困つていると、

スクアーロ「お前今起きたのがあ！～！」

あさか「ひつねえなあ～と思いながら、部屋をでた。

自分の部屋に着くと、首から掛けていたネックレスを見た。

そのネックレスを見ると、悲しくなる。

でも・・・これは見ないといけないもの。

忘れてはならないこと。

未来は、氣づくと泣いていた。

未来は、誰か来たらいけないと思い、涙を拭いた。

そのネックレスを首に戻し、見えないようじした。

絶対に、見せられない。

必ずこの記憶は、忘れないよ・・・

未来は、心の中で、誓っていた。

未来は、我に帰ると、誰かが見ていろと、思った。

未来「誰！！そこにあるのは。」

ドアは、開いた。

ドアから見ていたのは・・・

ネックレス・・・(後書き)

ちょっとシリアルになりました。

皆さんは、わかりましたか？

ネックレスのこと。

ネックレスに映っているものは、未来の秘密にかかわります。

やじにいたのは、

ドアのところにいたのは、マーモンだった。

未来は、ため息をついた。

未来「なんだマーモンか、良かつた。」

マーモン「未来、どうして泣いていたんだ?」

マーモンは、聞いてきた。

未来「えつ・・・マーモンは、そんなこと知らなくていいから・・・」

未来は、悲しそうに言った。

マーモン「どうしても知られたくないんだね。」

未来は、頷いた。

未来「マーモン・・・このネックレスはね、大切な人から、もらつたの。

でも、私は、その人に、酷いことをしてしまった・・・・・

未来は、ネックレスを握り締めながら、言った。

未来「『めん・・・こんなところ、他の人には、見せられないよ。

マーモンでよかつた～」

未来は、泣きやみ笑つてゐる。

マーモン「未来、話がある。アルゴバレーーノについてだ。」

未来「いいよ。話してあげるナビ・・・最低限ね。」

未来は、ネックレスをしました。

未来「じゃあ、何から話そつかーー！」

虹のアル「バレーノ使命」――

未来「これを見てわかるよね。ちよつと訳があつて、鎮はこれないよ。」

未来は、鎮がついてくる、虹色のおしゃぶりを、マーモンに見せた。

未来は、マーモンが、おしゃぶりを見たのを確認して、話を進めた。

未来「このおしゃぶりは、リングにもなるの。」

未来は、おしゃぶりをリングに変えた。

マーモン「ムムム、これはすこしね。」

未来「そうでしょー。虹色の使命は、

（それぞれの守護者達を、見守ること）。）だよ。」

未来は、低い声で叫んだ。

マーモン「へえ～、わんわんだ。未来ならできなんじやない。」

未来「ありがとわ。これで話すことないから。」

マーモン「わかったよ。じゃあね。」

未来は、マーモンに手を振った。

未来「本当は、もう一個使命あるんだだけじゃね。」（二二七七）

この声は、外に漏れることがなく、消えた。

最後に残つたことは、笑つている未来の顔だった。

虹のアルゴバレーの使命！－（後書き）

実は、マーモンにいたことは、本当の使命じゃ ないんです！！
(これも本当の使命だけど・・・)

未来の、本当の使命は、必ずわかります！！

未来の設定（追加）――（前書き）

ここからちょっと話が変わります。
絶対に読んでください！！

未来の設定（追加）――

今日は、学校が休みの土曜日だ。

ロック「大変だ……未来……」

未来「どうこう」と一なんなの……」

ロック「この世界に、お前のお母さんがいたんだ……」

未来「えつ……どうこう」と……」

ロック「お母さんの名前は、エメラルド・ルミネだ……」

未来「じゃあ私の名前は？」

ロック「イタリアでの名前は、ルビー・ルミネ・未来だ。」

未来「わかった。」

ロック「今度、エメラルド主催のパーティがある。

そこには、ボンゴレやヴァーリアーも出る。

有名なマファアがいっぱい来るんだ。もちろんお前もだ！」

未来「えつ……そんな。」

未来「えつ……そんな。」

ロック「そこで、母親を見るんだな。」

未来「そんな・・・まいつか」

そして話は終わった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4582y/>

家庭教師ヒットマンREBORN！ 秘密の少女

2011年11月23日19時52分発行